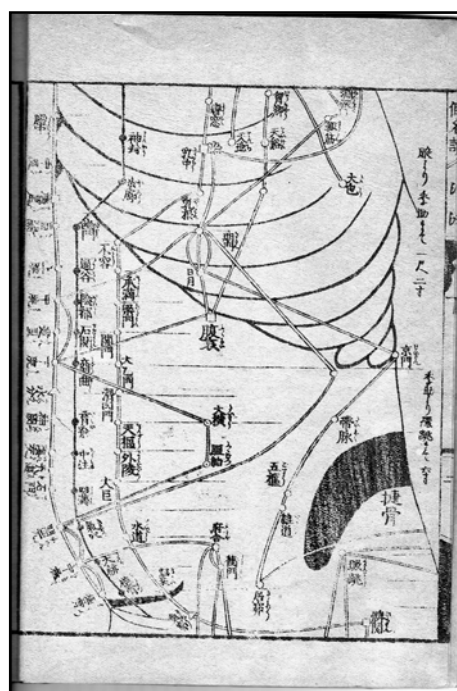
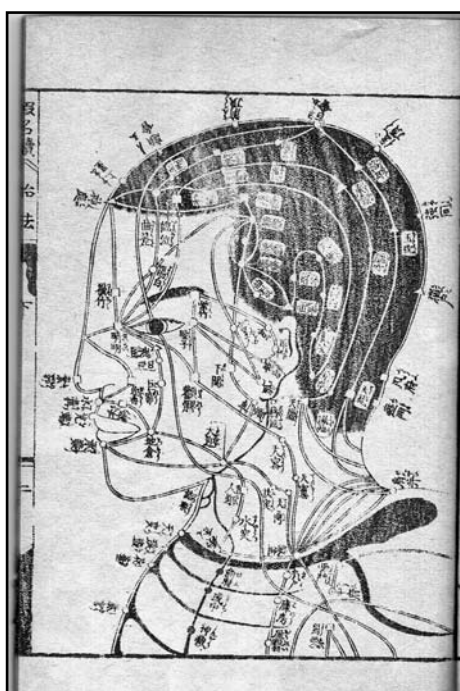
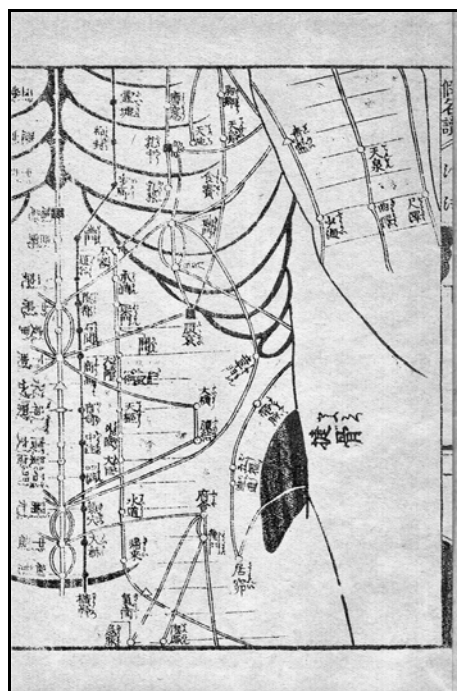
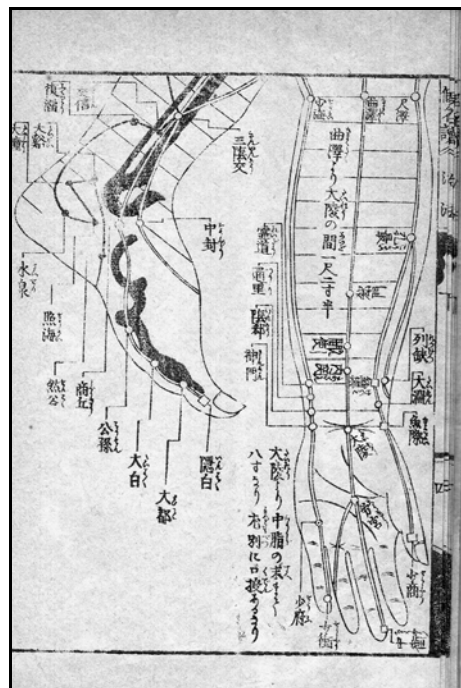
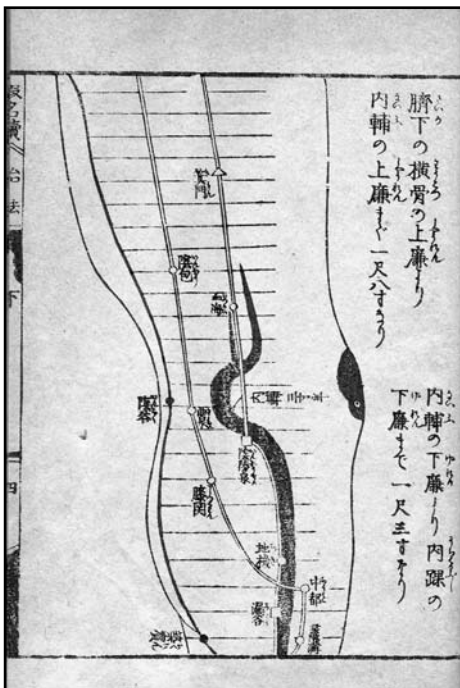
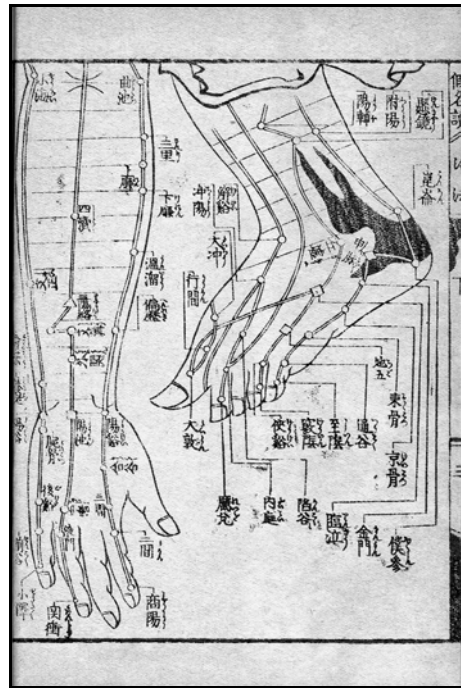
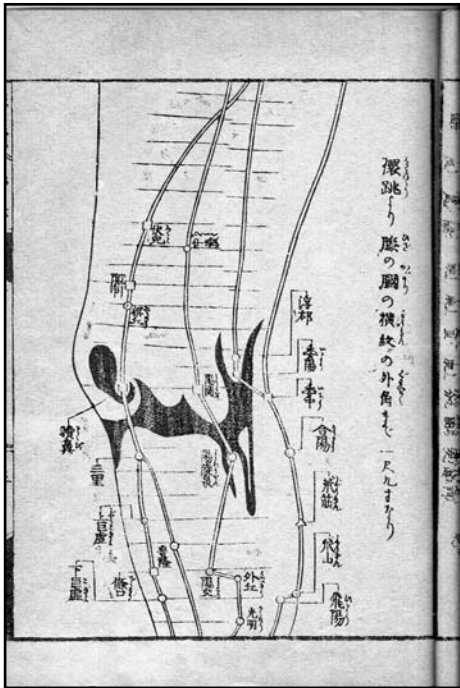
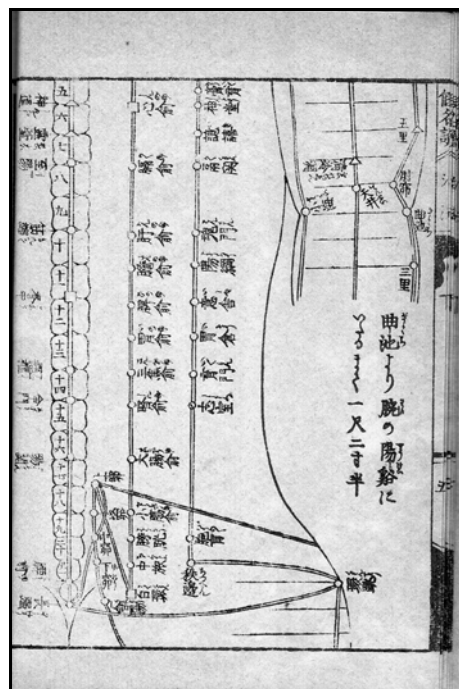
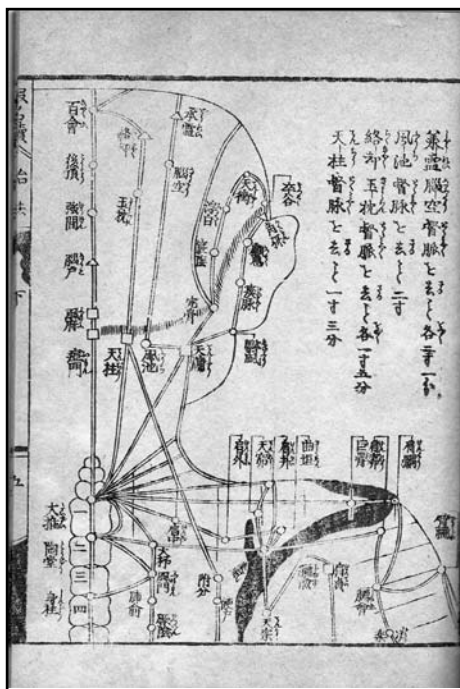


假名讀十四經治法卷之下

(1) 銅人形總圖







## （２）癰疽門

癰疽の初て出る先其経絡の部分を見て其各々経に随ひて針を行ふこと間日なし。如し或ハ針。日を間するときハ効なし。日を遂ふて刺し。或ハ一日に再び刺し以て其毒を瀉するときハ十日に至らずして自ら安し。若し針。日を間て或ハ針五六度にして病者苦しみ半途にして癢れば死に至る。如し或ハ死せずとも腐肉より新肉を生じ。艱苦萬痛累月に及ぶ。其辛苦譬るに物なし。若し病人針治を欲せざれば。急に騎竹馬の穴に灸すること七壮神効あらずといふことなし

○又方癰疽初め出の三日の前急に其腫物の頭に灸二十一壮自ら安し

△其初発は至りて小にして粟のごとく故に人ミナ忽にして其毒を発するに至るを待て終に死するに及ぶ追ふて悔とも及ことなし若已に三日を過ときハ即ち騎竹馬の穴に灸各々七壮奇効あらざることなし

○癰疽諸腫或ハ痒からず痛ず色青黒のもののハ肉先死す終に救べからず其初起に急に騎竹馬の穴に灸すること各々七壮

○癰疽発背皆日を遂ふて経絡に針を行へば自ら安し然れば未能治すること能はず竟に熟し膿に至る三稜針を以て赤暈の四畔を刺すべし而して大針を以て腫物の頭を裂破る連日に悪肉盡く消し新肉已に生ずるなり

## （３）騎竹馬の穴法

一條の蠟繩を以て病人の尺沢の横紋より。中指の端までを量り。載断。諸病者の衣裙を解き體を露し直竹の上に騎坐せしめ。尾窮骨に當て坐するに甚しめ彼先に量る蠟繩を脊より坐する竹の上に豎にし。繩の端盡る所の脊の上に借点し。更に別の紙捻を作り病者の中指の中の節を量り一寸となし。脊の借点より左右へ開き端の盡る所に各々灸七壮。止多く灸すべからず。此法を以て之に灸するときハ愈ざるものなし。蓋し是二穴ハ。心脈の過る所なり。凡癰疽の疾は皆心氣留滞に於て此毒を生ず。之に灸せば則心脈流通し。即時に安し以て死を起し生を回すの奇方なり

## （４）腸癰門

腸癰ハ小腹より腰に連て痛ミ或ハ一脚を蹇。身熱すること火のごとく。小便数にして欠し。昼ハ微し歇ども夜劇きハ三十余日の後に膿をなす。未膿ざるの前。預め騎竹馬の穴に各々灸七壮神効あり。已に膿て後ハ肘の尖に百壮。膿汁注ぎ下ること一二鉢神効あり

## （５）疔腫門

○疔腫面上口角に生ずるにハ。合谷。下三里。神門に針すべし

○手上に生ずるハ曲池の穴に二十一壮

○脊上に生ずるにハ肩井に七壮

△病の軽き重きを観て。重いものハ数を倍して灸すべし。併に騎竹馬の穴に灸七壮

#### （６）蒜灸門

蒜を隔てて灸するの法ハ。其腫毒大に痛。あるひハ痛ず麻木するに先湿紙を以て其腫物の上を覆ひ其乾く所を候がふ。乃ち是腫物なり即ち蒜を片となし厚さ三分ばかりにし腫物の頭の上に置き之に灸すること五炷にして蒜を更へ数々炷べし。初め灸して疼ハ。灸して痛ざるに至る。初灸して痛ざるハ灸して痛に至る此則ち鬱毒を引の法なり。且回生の功あればなり。若し腫色白して膿を作ざれハ日期を問ず宜く多灸すべし。若腫物大なるハ蒜を搗ただらし。患ところに鋪き艾を置いて灸するなり

#### （７）附子灸法

附子を削ること厚さ碁石の如く。正に腫物の上に着け唾にて附子を湿ハし艾を附子の上に置灸す。熱をして附子に徹せしむ乾かんとセバ更に唾つけ熱をして附子に徹せしむ屡々乾バ輒ち改ゆべし。艾氣附熱と相撃て腫物に徹せしむ則ハ愈ざるものなり

#### （８）石癰門

腫堅して根あり石の如くなるを石癰といふ腫物の上に灸百壮或ハ二百壮毎日に炷べし石子の如きものも砕け潰るゝなり

#### （９）風丹 并に火丹毒

三稜針を以て間もなく腫る所及び暈の畔を乱刺して多く悪血を出し翌日更に赤氣の在るところを看て初めのごとく乱刺して血を捨ること糞のごとくすれば神効有

癰瘤 針し破るべからず。針する則ハ肆にす

肉瘤 針灸するときハ皆人を殺す。慎むべし

血瘤 針するときハ大に血を出す止ずして死す

△瘤に種々ありて皆能治し易からず。其数三十有六最も血瘤。肉瘤。癰瘤ハ針灸の施しがたきなり膏藥服藥を以て治すべし

#### （１０）蟠蛇癰

瘰癧の別名なり頂を繞て核（核）を起すを蟠蛇癰と名附

○天井。風池。肘の尖に百壯。下三里。百勞。神門。中渚。外関。大椎。皆俱に灸して神効あり

### (11) 大小便

大小便通セされハ。膀胱俞に三壯。丹田に二十一壯。胞門に五十壯臍下一寸半。両傍各々三寸に灸百壯。大腸俞に三壯

○小便黄赤にして。禁ぜざれば。膀胱俞。三焦俞。小腸俞に針すべし

○小便痛ぜずして。臍下冷るにハ。胞門丹田。神関。營衝。膀胱俞皆灸すべし

○小便難にハ。臍二対する脊骨の上に灸三壯

○小便に血交り出には胃俞。関元。曲泉。營宮。三焦俞。腎俞。氣海に年の壯。太冲に三壯膀胱俞。小腸俞。皆灸すべし

○腸鳴り瀉泄して腹痛するにハ。神関に百壯。三陰交に三壯

### (12) 腰脊門

○腰の辺より脊へかけて疼。溺水の濁にハ章門に百壯腎俞に百壯。膀胱俞。氣海に二十一壯

○卒に腰痛て伸屈の自由なりがたきにハ腎俞。尾窮骨より上へ一寸に七壯づゝ。婦人ハ八髎に五十壯

○又法病者をして正しく立し細き竹を地より豎に臍を量りて竹に記しをつけ其竹を後の脊骨に着け。竹の上乃記しの当るところに灸すること年の壯に随ふ。是を俗に臍がへしと呼ぶ

○腰痛て腹の鳴にハ。神関に百壯。胃の俞に年の壯。大谿。太冲。三陰交に五十壯。妙効あり

○老人の腰いたむには腎俞に三十壯。命門に五十壯。即効あり

○腰腫て倦く痛にハ崑崙。太冲。章門に二十一壯能愈るなり

### (13) 咳嗽門 併痰喘

凡痰喘ハ熱に因て上り大氣の炎上より致ゆへなり

○咳逆久しく止ざるにハ大椎より五の椎に至る節の上に灸すること年の壯に随ふ而して期門に三壯立どころに止こと神効あり

○又方乳の下。一指を留むばかりに当りて正に乳と相直る胸肋の間。陷なる中に灸すること三壯。女人ハ乳の頭を屈めて之を取り灸す。男ハ左り女ハ右り肌に至れば立所に治す神のごとし

○音失がたきにハ。魚際。合谷。間使。然谷。肺俞。腎俞に灸すべし

○喘息にハ合谷。大谿。上星。太陵。列缺。下三里等に久しく針を留めて其氣を下すべし

○哮喘にハ天突に五壮又細き蠟繩の類を頸に套て前に垂しめ。鳩尾の骨の尖りを量り其両端を後に旋し脊骨の上へ索の蓋る所に点記し灸七壮より二十一壮  
○痰喘には膏肓俞に灸し。腎俞に灸し合谷に針し太淵に針し膻中に二十一壮神効あり

#### (14) 膝脚門

○足の内外の踝し紅く腫れて日久しく膿ず。微しく痛て座しがたきには騎竹穴に灸七壮。若愈されハ更に灸すべし  
○足脚輒ち轉筋りして痛忍びがたきにハ承山に灸三十一壮。若し内らの筋攣にハ内踝しの尖りに七壮外の筋急にハ外踝しの尖に七壮妙とす

#### (15) 手臂門

両手俱に大に熱して火の中に在ごときにハ。湧泉に灸五壮立どころに効あり  
○左りの手足俱に何となく倦く力なきにハ神闕に百壮如しそれにて愈ざれば五百壮を灸すべし  
○手の五指俱に屈んで伸ざるには曲池。合谷。中腕に針すへし伸て屈ざるによし

#### (16) 鼻病門

凡水出るを鼫といひ血出るを衄といふ俱に風府。迎香。上星に十四壮灸す。太冲。絶骨。合谷。太陵。尺沢。神門等を治すべし  
○衄血止ずして瘖して言語こと能ハざるにハ肺俞。合谷。間使。大谿。靈道。風府。太冲等治すべし  
○鼻塞るにハ臨泣。合谷に灸すべし。  
○鼻の中に瘰肉を生じて涕出にハ上星に百壮。迎香。神門。合谷。肺俞。尺沢。額会皆灸すべし

#### (17) 痢疾門

○赤白痢には臍中に百壮神効あり  
○脱肛にて苦しむにハ神闕に年の壮百会に二十一壮膀胱俞に三壮  
○大便秘結し絞重きにハ巴豆の肉を練りて餅のごとくし臍の中におき其上に灸三壮即効あり

#### (18) 痔疾門

痔ハ凸の肉孔の中より出るなり是肉に三稜針を用ひて多く血を取棄れば立所に治愈す



○又方凸の肉に灸すること百壯即ち平ぎて効を奏す  
○痔疾種々の症ありといへとも百会。瘰癧門等に灸して神効あり

#### (19) 勞瘵門

勞瘵には独り艾火を以て貴とき針術藥餅ハ功大に微し。脊の第三椎より十五椎の尖に灸して効あり。或ハ脊骨を挟んで両傍とも其病鬱の気の聚つ所を見認て数所を焼べし

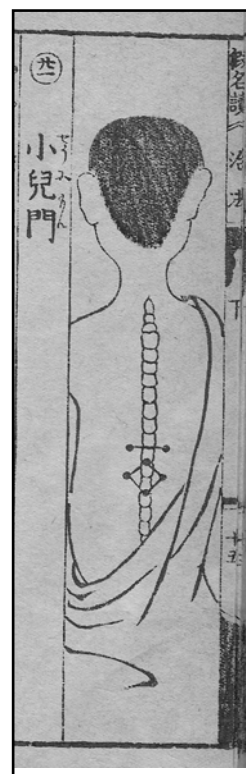
○四花患門等に灸五萬壯妙

○又方腰眼の穴に艾を安し山椒の末を密に練りて餅の如くし其四畔を圍て火氣を留しめ。数日灸して三萬壯に至れば族類に伝る虫を殺す是を遇仙の灸と名附神効有

#### (20) 四花穴法

第二穴ハ先患人を平身に正しく立し蠟繩を以て。男ハ左リ。女ハ右の足の大拇指の端に繩の頭を当て足の掌に循し後に向ハしめ膝の胸りの所大横紋に至りて截断俎患人の髪を解き両辺へ分平身に正しく坐せしめ彼足を量りし繩を鼻の尖乃上にあて指にて按へしめ繩を引て上に向ひ頭の正中皮に循にて腦後に至り肉に付て垂れ下し背骨の正中に当て繩の端の竭所に記しを附け卻て病者の口を微しく合さしめ短き蠟繩を以て口の左の角より上へ唇の吻に循て鼻の根に至り斜に下し口の右の角に至るなり是の如くなして截断此繩を展べ中を摺り墨にて記し先に記したる背中の骨の上に押し当て墨と記とを合せ横に左右へ濶き平かにして高下もなく繩の両頭の竭ところ墨にて記すべし灸穴なり

第次の二穴ハ病人を平身に正しく座せしめ両肩を脱し蠟繩を以て項を繞ハし前に向ひて雙筋にし垂下し鳩尾の尖りと齊しくなし即ち雙べ截る是繩の中心を喉の結骨の上に着て繩の両頭を引て後へ向へ背骨の正中に当て繩の端の盡るところ墨にて記す卻て病者をして口を合さしめ短き蠟繩を以て横に口の両吻を一文字の如く截取中より摺り墨にて記し背骨の上の前に点する所に推あてて前のことく横に両端の盡ところに墨にて記す是四穴を共に同時に灸各々七壯より十五壯に至り百壯にいたる或ハ百五十壯神効あり灸瘡初て發るときを候にて後の法に依て又二穴に灸すへし





第三の二穴ハ第次の口を量る一文字の縄を中より摺り墨にて記し第次の背骨の上へ正中に推あてて上下に開き縄の端し上下盡すところ墨にて記す是四花の穴より灸すること各々百壯第三ともに六穴也日輪の火を取て是に灸すること奇効あり尤妙とす百日の中飲食房勞を慎ミ身を静かなる所に置いて心を安んじ三十日の後尚いまだ愈ざるを覚ときハ復初の灸穴に再灸す

#### (21) 小兒門

- 遊風の毒胸腹に入即は死なり是時急に三稜針を以て紅き所を乱刺して多く悪血を出し翌日更に紅赤の所を見て右のごとく針刺す奇効あり
- 驚風には神道に灸七壯より百壯に至る
- 陰卵偏く大にして腹に入たるにハ太冲独陰氣海三陰交関元を治すべし
- 雀目にハ手の大指の甲の後乃第一の節の内の横紋の頭白肉の際に各灸一壯。肝愈に九壯
- 兒生れて十七日の内啼こと多く。客風臍に中りて心脾に至るにハ神門合谷太冲列缺各灸七壯
- 先に驚て後に啼ことの噪しきにハ百会に七壯齟交間使に五壯
- 浮腫ありて氣促するにハ水分に三壯三陰交に三十壯脾愈に三壯奇効あり
- 乳を吐にハ。中庭。亶中の下一寸六分に灸すること五壯
- 四五歳まで言いわざるにハ心愈。足の内踝しの尖の上に各々灸すること三壯
- 臍の腫るにハ。臍に対する。背骨の上に灸三壯。或ハ七壯奇効あり
- 小便通ぜざるものにハ。百会に七壯。湧泉に三壯。胞門に五十壯。而して後。芭豆の肉を搗て餅となし。臍の中に填て灸五七壯妙
- 口噤ずるにハ然谷を治べし
- 善驚にハ然谷
- 多く哭にハ百会
- 遺尿にハ氣海に百壯。太敦に三壯妙効あり
- 夜々魘を見。怯へ或ハ自汗し驚き悸ぎし。或ハ詈りて息ず。又ハ譫語をいふハ心愈に百壯。腰眼。太陵。湧泉。後谿等に三壯即効あり

#### (22) 五癘門

△夫急驚風ハ。風に因て作る或ハ禽獸雞犬の声を聞て作る。口涎れを生じ。一身搐溺し。身口皆熱し其発るや暴烈し。惺て後。旧のごとし  
慢驚風ハ大病の余或ハ大吐の余に発するものなり。内大に虚乏し其身口鼻の氣出れとも皆冷時々痙瘓す或ハ昏睡して睛を露乃類ひなり  
右急慢驚の両症ともに氣絶するものハ先太衝の脈を診に絶ざるものは。必治すべきなり

○其治法にハ百会に三壮灸す。或ハ臍の中に百壮神効あり

△医多くは大炷を以て灸壯を多くせず。僅かに十四五壮にして止。曰く不治なりとす歎すべし予往々是症に溝ことに先太衝の脈を診して未絶ざるものハ肝俞鬼眼神庭百会等に灸し。後に神闕に灸す五十壮より百壮二百壮にいたりて輒ハち効を奏することあり

△案るに火氣神に徹せずんハ驗なし。神を補ふに火氣を以てす火氣能生を回す。神また火氣を得て盛なり。効あるかな艾火の神を殷にし。病を減ず孟軻の曰く三年の病に七年の艾を用ゆと。若之に據バよく治セざるもの疾ひならん乎

馬癰にハ金門神門臍中に三壮

羊癰にハ大椎に三壮第九椎の下に三壮

牛癰にハ鳩尾に五壮三陰交大椎を治す

雞癰にハ百会間使絶骨申脈七壮

犬癰にハ劳宮申脈に各一壮づつ

猪癰にハ太淵巨闕絶骨に三壮

食癰にハ鳩尾の上五分に三壮三陰交

### (23) 婦人門

婦人多くハ血病なり。經水期なくして来ものハ血虚して熱あるものなり。經水来んとするに痛を作ものは血実して氣の滞るなり

○婦人月水調はず。或ハ小産の後滞下腹痛口乾き発熱し大腸調はず。時々血を下し久しく懷孕ざるにハ石門に七壮より百壮に至る。曲泉に三十壮奇効あり

○女子十五六歳にして經水行ず日夜寒熱往来し手足痺れ食進ず。頭痛心悪く嘔吐し腹中塊ありて否へ痛にハ。天枢に百壮章門。大腸俞。曲泉。曲池。臍に對する背骨の上に二十一壮灸す即効あり

○陰挺の出るにハ。照海。太敦。大谿。陰驕。曲骨。曲泉に三壮

○血塊ありて月事調ハざるにハ。関元間使。陰驕。天枢。皆針して奇効あり

○臍下に冷疝ありて時々痛にハ。氣海。独陰。陰交。太冲に灸すること百壮より二百壮

○赤白の滞下にハ。曲骨に七壮。太冲。関元復留三陰交天枢に一百壮灸す

○月經の通ぜざるにハ。合谷。陰交。血海。氣衝に針すべし

○血淋にハ。丹田に七壮より一百壮に至る

○淋瀝にハ照海。曲泉。小腸俞。皆針して神効あり

○惡血にて腹痛するにハ。石門に十四壮より百壮に至る。陰都。巨闕を挟むこと一寸五分にして下の二寸に直る。灸三壮針を禁ずべし。一度針セバ身を終まで子なし。四滿ハ臍の傍を挟むこと五分にあり下の二寸直る。灸三壮神効あり

○乳癰にハ騎竹馬の穴に灸す妙効  
○乳の汁なきにハ亶中に七壯より五十壯に至る妙とす。是穴所ハ針を禁ず  
○陰中乾き痛て陰陽を合すること能ハざるにハ曲骨に五十壯奇効あり  
○小便より血交り出るにハ。膈愈に針すること三分留むこと七呼灸三壯  
○月事断ざれハ陰陽に三壯。陰交に百壯

#### (24) 風癰門

鼻塞り面熱して夜寝れハ鼻より血を出し。眉毛墮落眼眶腫れ。一身搔痒瘡を成す。三稜針を以て一二日を間てて身上の閉黒きところを乱刺し。閉汗出るに至ること百日。又針して骨に至ること初のごとく。汗出ること百日鬚眉生じて後に即止なり。灸もまた閉黒きところに随て佳し。只調攝ハ専ら針灸の法に依る。慎で風寒に触ことなかれ良効あり。治穴ハ委中。尺沢。太冲。皆針して血を出し棄ること糞のことし。池門。中渚。絶骨。崑崙。申脈。太淵。照海。内関。合谷。心愈。肺愈。胃愈。脾愈等皆治すべし

#### (25) 急死門

中惡と名く疾あり。是病ハ悪き氣に中るなり。皆陰中乃毒氣なり人多くハ莽々たる草の中。或ハ生茂りたる藪の裏或ハ人常に行ぬ墓原にいたり。或ハ古き井口に入りて忽ち急死することあり。是時忽に百会に二十一壯間使。年壯。承漿に七壯。人中に五十壯。陰卵の下十字の紋に三壯。神闕に百壯。下三里に七壯。大に神効あり皆能生を回さずといふことなし

○溺水して死したるにハ。神闕に百壯。即ち活ること神のごとし

○弔死したるにハ。先心下を候ふべし。微にても温りあれハ必活べし。法に首を縦めずして索を解おろし。衣服を取。温なる所に安く臥しめ。厚く畏きびしく肛門を填め。一人ハ頭髮を引。縦めず。一人ハ胸肩を摩り頻々屈め伸し後。竹の管を以て両方の鼻乃孔を吹バ

即ち活べし。奇々妙なり必ず鍼灸を急ぎ施すべからず。三日を過して章門を焼こと二十一壯

○中暑にて死せんとするにハ急に両乳の上に灸すること七壯妙効あり

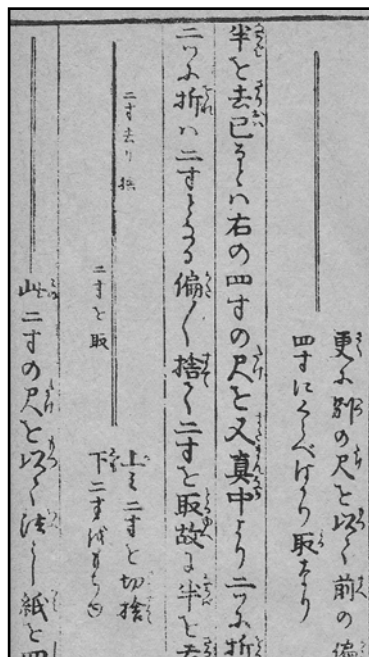
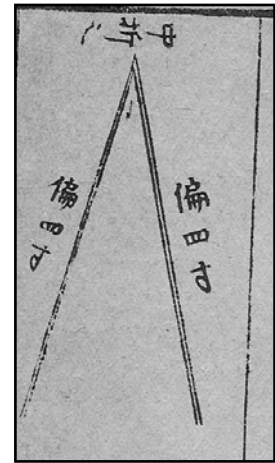
#### (26) 草度方

血氣形志篇に曰く。背の愈を知んと欲セバ。先其両乳の間を度り。中にこれを折り。更に他の草を以て度り半を去己り即ち両隅を以て相柱すといへり  
△両乳を度るに古昔ハ細長き草を以て量しなり。今ハ蠟繩を用ゆ。便利なる故なり。蠟繩を以て両乳の間を量り是を八寸と定む。俎八寸の尺を真中より折バ偏々四寸となる之

八寸の蠟繩を二つに折ハ偏々四寸づつになるなり図上のことし

更に他の草を以て度とハ改めて。別に外の蠟繩を以て前の中に折る四寸の尺にくらべ是をも又四寸とす図左のごとし

更に別の尺を以て前の偏々四寸にくらべはかり取なり



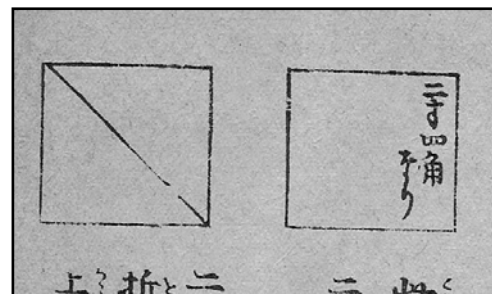
半を去己るとハ右の四寸の尺を又真中より二ツに折之二ツに折ハ二寸となる偏々捨て二寸を取故に半を去と云

上ミ二寸を切捨  
下二寸をもちゆ

此二寸の尺を以て法とし紙を四角に切て二寸四方となす。是を筋違に折角と角と重合せて三角鱗の象となすなり。即ち兩隅を以て柱すとハ是を云なり。隅とハ角なり四角の紙を角と角とを合すれハ三角となる。是形を柱すといふ図左のごとし

此二寸乃紙を法とし是の如く二寸四方に紙を截なり

二寸四方の紙を図の如く筋違に折るなり是を斜に折といふ是上にいふ所乃角と角と合する也

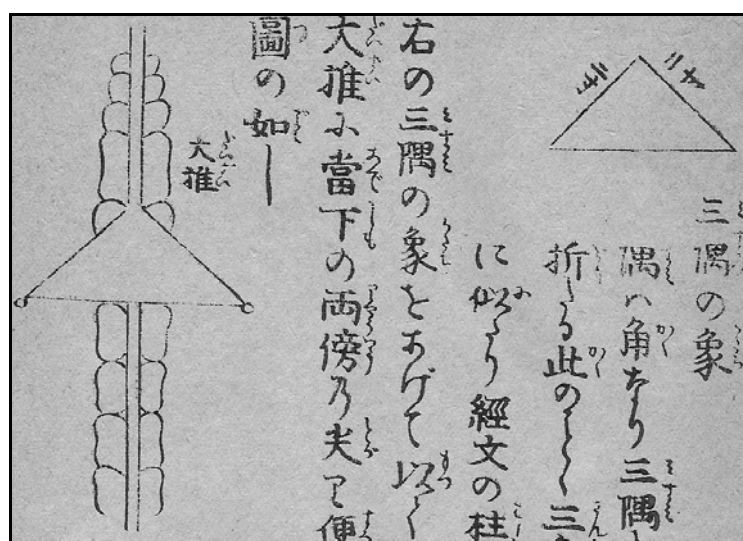


### 三角の象

隅ハ角なり三隅とハ三角なり上ミの筋違に折たる此のことく三角になり鱗形のごとく琴柱に似たり経文の柱の字バ是義なり

右の三隅の象をあげて以て背を量る上ミ乃尖りを大椎に当下の兩傍乃尖り便ち背の二行にあるなり図の如し

下兩隅の端に点す兩愈相去こと全く三寸之これ背愈扁と相合す



- (27) 禁針穴の歌七首 数々唱て記憶すべし
- 二十二穴針を忌べき所あり脳戸顙会に神庭乃穴
  - 承泣と承靈ハなを玉沈角孫顙顙絡却をセす
  - 神道二靈台臺中忌べきぞ神闕会陰水分の穴
  - 横骨とい氣衝手の五里三陽絡箕門承筋及び青靈
  - 遇て肩井ふかく刺ぬれば人ハ氣絶すものところそしれ
  - 雲門と鳩尾を嘗て刺なかれまた缺盆と客主人なり

- (28) 禁灸穴の歌
- 禁灸ハ四十五ところあるぞかし承光瘕門風府なりけり
  - 其つぎハ天柱素膠臨泣に睛明攢竹迎香乃かず
  - 第三ハ禾膠顴膠系竹空頭維と下関と背中の穴
  - 乳の中と又人迎と天牖と肩貞心俞白環をいむ
  - 鳩尾と魚際と淵液に少商天府腹哀ハセず
  - 隱白に漏谷条口陰陵泉灸を忌べし陽池陽関
  - 殷門に委中の穴ハ猶さらに陰市申脈承扶いましめ

- (29) 針灸の吉日
- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 丁卯 | 丁亥 | 庚午 | 庚子 | 甲戌 | 甲申 | 丙子 | 丙午 | 癸丑 | 丙戌 | 壬午 | 壬子 |
| 壬戌 | 辛卯 | 戊戌 | 戊申 | 己亥 | 乙巳 | 丁丑 | 丙申 |    |    |    |    |

（３０）針灸の忌日

毎月 六日 十六日 十八日 二十三日 二十四日 晦日

又三日十五日晦朔節に入の前後一日ハ凶なり

仮名読鍼灸治法 卷之下終